

「特別の教科 道徳」学習指導案

日時 令和元年5月29日(水) 第5校時

第4学年1組 37名

授業者 平島 将崇

＜目指す児童像＞

自分の思いや考えをもち、客観的に物事を判断し、前向きに行動できる児童

1 主題名 『自分に対して正直に』(A 正直、誠実)

2 ねらい 自分に対する正直な心を大切にす的心情を育てる。

3 教材名 「あかいセミ」(出典：東京書籍『新しいどうとく4』)

4 指導観

(1) 価値観

誰も過ちを犯してしまうことはある。しかし過ちを犯してしまった後に、どのような行動をとるのがとても大切である。いけないことだということは分かっている、「叱られたくない」「なかなか言い出せない」という理由で、自分の行いを隠してしまうことがある。

中学年の時期には、特に他者に対して嘘をついたりごまかしたりしないことだけでなく、これにより自分自身も偽ってしまうことにつながることに気付かせることが求められる。正直であることの心地よさを自覚し、過ちを犯した際には素直に反省し、正直に伝えることで自身を改めようとする心情を育てたい。

また、過ちだけでなく、正しいと思っけていても、「大変だから」「みんなそうしているから」などの理由で、自分の気持ちをごまかして安易な方へ流れてしまうこともある。自分自身の気持ちに対して正直に行動することの大切さにも気付かせたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、多くの児童が正直に行動していることが多い。たとえ仲の良い友達同士であったとしても、友達に「悪いことは悪い」「いけないことはいけない」と伝えるとともに、言われた児童も素直に認め、行動を改善する姿が多く見られる。また、4月当初から「人間だから間違えることもある。そのときにどのように行動するかが大切だ」ということを、何か問題が起こった際に、児童に繰り返し指導をしてきた。

自分自身の中での葛藤を踏まえた上で改めて過ちをしたときに素直に認めること、正直に言うことの大切さに気付かせたい。また、自分自身の気持ちにも正直になるという観点を示し、他者だけでなく自分自身に対する意識を一層高めさせたい。

(3) 教材観

主人公の「ぼく」は、店で赤い消しゴムを盗んでしまったことで、自分がどんどん悪い人間になっていくことを感じていく。その後、母親に盗んでしまったことを打ち明け、店に謝りに行くという内容で

ある。盗んでしまった消しゴムのことがずっと気になり続け、後悔の念のために夜も眠れない状況になる主人公の心情の描写は、「ぼく」が嘘をついたりごまかしつづけていたりすることへの不快さや後ろめたさを、児童が感じることができる内容である。また、その後正直に謝りに行った後の「ぼく」の行動描写から、偽りなく正直に言ってよかったと実感できる教材である。

中心発問では、お母さんに消しゴムを盗んでしまったことを正直に話す「ぼく」の気持ちを考えさせ、ねらいに迫れるようにする。そのために、補助発問では、寝ようとしても、赤い消しゴムのことが頭から離れず、夢の中でも消しゴムの夢を見て、目が覚めたときの「ぼく」の気持ちを考えさせ、中心発問につなげる。

5 中学年ブロック分科会の取組

(1) 学習指導案の作成において話題になったこと

- ・ねらいとする価値について
- ・中心発問の内容について
- ・展開（後段）にて児童の経験を引き出す工夫について

(2) 学習指導案の作成までの取組

- 4月24日（水） 学年で内容項目について検討する。
- 5月14日（火） 学年と研究主任で資料分析表を基に、発問を精選し、主発問を決める。その後、校長と学年、研究主任とともに検討する。
- 5月17日（金） 中学年ブロック（研究主任を含む）にて指導案を検討する。その後、校長、学年、研究主任とともに検討する。
- 5月20日（月） 研究推進委員会にて指導案を検討する。
- 5月28日（火） 中学年ブロック（研究主任を含む）にて指導案を検討する。

6 研究主題に迫るための手だて

(1) 「主体的な学び」に導くために

発問の工夫

導入で正直と聞いてどんなことをイメージするかを明らかにした上で、教材文と出会わせる。その際に、正直であることは大切であるが、簡単にできるものではないことを児童と確かめることで、展開（前半）の部分でぼくの葛藤がより分かりやすいようにしておく。

(2) 「対話的な学び」に導くために

発問の工夫

補助発問の際に、「盗んだことを正直に言おう」というような類の答えが児童から多く出ると考えられる。その後の主発問を問いかけた後に、「言わなければ誰にも盗んだことは気づかれない」とあえて教師側から揺さぶりをかけることにより、ぼくが「自分自身に対して正直になった」ことをより分かりやすくする。

また、主発問でお母さんに正直に言おうとするぼくの気持ちに着目させることで、自分の気持ちに正直になって行動することへ意識を向けることができるようにする。

板書を生かす工夫

児童から出てきた考えをまとめる際に、「盗んだことを隠そうとする後ろめたい気持ち」と「自分自身に打ち勝った気持ち」に分けることで、ぼくの内面の葛藤が視覚的に分かるようにする。

(3)「深い学び」に導くために

表現活動の工夫

教師の説話を展開（後半）の最初に行うことで、児童が自分自身の経験を振り返ることができるきっかけになるようにする。

書く活動の工夫

自分に嘘をつかずに正直に言えたことがあるかを、これまでの自己の経験を踏まえて振り返る時間を十分に確保することで、自己との対話を深めることができるようにする。また、自分自身の経験だけでなく、友達や家族、テレビなどの見たことや聞いたこと、知っていることなどを踏まえて考えてもよいことを伝えることで、多角的に自己を振り返ることができるようにする。

7 学習指導過程


過程	時間	学習活動（○発問◎中心発問・予想される反応）	◇指導上の留意点 ◆評価（方法）
導入	5分	1 「正直」の言葉の意味について考え、正直に何かをすることが簡単にできるかどうか考える。 ○「正直」と聞いて、どんなことをイメージしますか。 ・嘘をつかない ・ごまかさない	◇「正直」でいることは大切であるが、簡単にできるものではないことをおさえる。
展開・前半	20分	2 教材「あかいセミ」を読んで話し合う。 ○びっしょりと汗をかいて朝目が覚めたとき、ぼくはどんな気持ちでしたか。 ・盗んだから夢に出てきたんだな。 ・おばちゃんが言っていた通り、ひどいことをしてしまったな。 ◎お母さんに消しゴムを盗んだことを正直に話そうとしたとき、ぼくはどのようなことを考えていたでしょう。 ・どんどん自分が嫌なやつになってしまうな。嫌だから正直に話そう。 ・悪いのは自分だから、言わなくちゃだめだ。	◇夜寝ようとしても赤い消しゴムのことが頭から離れないだけでなく、寝ていても夢に出てくるくらいぼくが赤い消しゴムを盗ってしまったことに対して強い後ろめたさを感じていることをもとにして、ぼくの内面の葛藤が感じられるようにする。 ◇正直に言おうか悩んでいるぼくの内面の葛藤が分かるように板書することで、視覚的にもぼくの心の揺れが分かるようにする。そのために、児童の考えをメモし、まとめながら板書する。 ◇「自分の気持ちに正直になって行動する」ことを選択したぼくの内面の葛藤を取り上げ、自分の心に嘘をつかず、正直に行動しようとするぼくの内面を考えさせる。
		※言わなければ気づかれなかったのに、どうしてぼくは言ったのか問いかけ、児童を揺さぶる。	

<p>展開 ・ 後半</p>	<p>15分</p>	<p>3 教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の表現の練習で、グループごとのダンスを考えると、自分の気持ちに正直になって納得するまで話し合いをしていたときのこと ・テストの答えを返されたときに、本当は間違っているのに丸がついていたのを見て、正直に先生に言いに来たこと <p>4 今までの生活を振り返る。</p> <p>○今までに正直に話したことはありますか。また、自分自身の気持ちに正直になって、何か行動したことはありますか。自分だけでなく、他の友達がしていたことやテレビなどで見たり聞いたことでも書いてかまいません。</p>	<p>◇教材とは異なる経験を説話として児童に話すことで、自分自身の経験を振り返ることができるようにする。</p> <p>◇過ちを正直に言うことだけでなく、自分自身の気持ちに正直になることについても触れ、児童が振り返ることができるようにする。</p> <p>◇自分自身の経験がない場合は、友達や家族、テレビなどから知ったことや見たこと、聞いたことなどから書いてもよいことを伝え、振り返りやすいようにする。</p> <p>◆自分自身の経験などから振り返り、正直について考えることができたか。</p> <p>(ワークシート・発言)</p>
<p>終末</p>	<p>5分</p>	<p>5 まとめをする。</p>	<p>◇正直に行動することができたことにより、心情の深まりが見えた児童についても取り上げ、前向きな生活をしようとする心情を育てたい。</p>

8 板書計画

正直…まちがったことをしてしまったときにごまかさない
うそをつかない

- ・自分自身の気持ちにうそをつかずに行動する



- ・やっぱり正直に言おう。
- ・ずっとモヤモヤし続けたくない。
- ・悪いことをしたからちゃんと言わなきゃ。
- ・どんどんいやな自分になるのはいやだ。

お母さんに消しゴムをぬすんだことを正直に話そうとしたとき、ぼくはどのようなことを考えていましたか。


「正直」とは…

- ・うそをつかない
- ・ごまかさない
- ・かくさない

あかいセリ

- ・こわい夢だったな。
- ・ぬすんだから、夢に出てきたんだな。
- ・もつこんな思いしたくない。
- ・言った方がいいのかな。

- ・でも、本当のこと言いたいな。



9 資料分析表

<場面>	<ぼくの心の動き>	<発問>	<発問の意図>
「はしもと」で消しゴムを盗んでしまう。	足がふるふる震えていた ・どうしよう。 顔を上げられなかった。 ・ついとってしまった。	おばちゃんに話しかけられた顔を上げることができなかったぼくは、どんなことを考えていましたか。	過失を起こしたときの気持ちから、心の動きに気付く。
ゆみに早くプールに行こうと言われるが、うるさいと言ってうきわをたたく。	・消しゴムを見ていたら怖くなってきた。 ・プールに行く気分じゃない。		
こうちゃんとセミ取りに行くが、消しゴムのことを思い出して急に嫌な気持ちになる。	・なんでおばちゃんと同じことを聞くんた。嫌だな。 ・赤い消しゴムのことを思い出して嫌になってきた。	夜寝ようとしても、赤い消しゴムのことが頭から離れないとき、ぼくはどんなことを考えていたでしょう。	主人公の気持ちの葛藤に共感し、人間の良心と弱さについて考えていく。
寝ようとしても、赤い消しゴムのことが頭から離れない。	・消しゴムを返したいな。 ・けど返せないな。 ・怖いな。恥ずかしいな。 ・おばちゃんに怒られるよな。 ・こんなことしなければよかった。	〇びっしょりと汗をかいて朝目が覚めたとき、ぼくはどんな気持ちでしたか。	自分の過ちを認める誠実さや正直な心がないと、心の苦しみが続くことに気付くようにする。
消しゴムの夢を見て、目が覚める。	・こわい夢だったな。 ・もうこんな思いしたくないから、言った方がいいのかな。 ・でも、本当のことは言いつらいし、どうしよう。	◎お母さんに消しゴムを盗んだことを正直に話そうとしたとき、ぼくはどのようなことを考えていたでしょう。	正直に話すことの大切さに気付けるようにする。
お母さんに消しゴムを盗んだことを正直に話そうとする。	・やっぱり正直に言おう。 ・ずっとモヤモヤし続けたくない。 ・どんどんいやな自分になるのは嫌だ。	おばちゃんに謝り、指切りげんまんをしたとき、ぼくはどんなことを考えていたでしょう。	過失を認め、素直に反省することの大切さに気付けるようにする。
おばちゃんに、ごめんなさいと謝りに行く。	・正直に言ってよかった。 ・もう苦しまなくていいんだ。 ・心がすっきりした。 ・本当にごめんなさい。		